

分野別講座「基礎基本の充実と豊かな活動のある算数の授業」

参加者 36名 まとめ 金井 敬之

提案 深澤 英雄・大達 和彦

全国学力テストに計算問題が出題されなくなった。問題も基本的で簡単な問題も増えた。しかし、正答率の低い問題も多いし、記述問題が苦手な理由や根拠などを説明できない子も多い。

例えば、 $6 + 0 \cdot 5 \times 2$ という計算問題を、水を洗顔に6L、歯みがき2回、1回に0.5L使う式は「 $6 + 0 \cdot 5 \times 2$ で答えを書きましょう。」という出題に変えると、計算問題としての出題よりも、正答率は6ポイントも下がる。

今回注目の大達グッズは、くり上がり、くり下がりのある計算シート、面積図と数直線を対応させた、単位量あたりの大きさ・割合シート、大きな数の位取りシート、長さ・重さ・かさ、面積・体積・容積の単位換算シートである。

ラミネートされた個人用シ

分野別講座「暗算が計算力と数感覚を高める」

参加者 10名 まとめ 大達 和彦

提案 金井 敬之

高学年の子どもたちが、 $24 \div 2$ や 23×3 を筆算でするのはどの教室でも目にする光景です。

$4 \div 2$ の約分を忘れたり、 $(4 \div 2)$ の最小公倍数がとっさに出ないなど克服したい課題が山積しています。そんな子どもたちの「数感覚」

を育てたり高めたりする手立てを様々な視点から紹介していただきました。

48 という数を 6×8 や 4×12 だけでなく 16×3 24×2 $96 \div 2$ で表したり百の補数の $100 - 52$ で表すなど、教室で取り組むことのできる提案が沢山ありました。

ところが全国学力テストの経年変化をみていくとその計算力が次第に重視されなくなっていることを痛感します。 $H23 \sim H25$ 年度まで7題出されていた計算問題は、その後6題、4題と少なくなり $H30$

年度はなし、 $H31$ 年度も文章問題の中で問われるのみで単独として出題されてはいません。

2年のたし算ひき算の筆算に始まり3年の2ケタ3ケタのかけ算4年の割り算の筆算へと、筆算からなかなか脱却できない子どもたちの現状があります。

25×16 を $25 \times 4 \times 4$ に置き換えたり、 25×24 を $25 \times 4 \times 6$ にしたり、 35×35 36×34 38×32 など十の位の数が同じで一の位の数の和が十になるときは常に一の位の数を掛け、次に十の位の数 \times (十の位の数 $+1$)をかけば答えが出ることなど授業の中で取り組ませたいものです。フラッシュカードを使ったり、ワーキングメモリーを活用してジャスト10やジャスト20ジャスト100を作りたくなる作問の工夫など大変多くの示唆と今後の課題をいただきました。